

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2019 年 2 月

「彼を知るために」「天のコミュニケーション・システム（Ⅰ）」「アガペー戒めの目標」「白玉粉チーズ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

天のコミュニケーション・システム (I) 4

聖書の教え

朝のマナ

彼を知るために 8

That I May Know Him

現代の真理

「アガペー戒めの目標」 37

神の憐れみの最後の招き

力を得るための食事

白玉粉チーズ 44

お話コーナー

「ゲッセマネにて(Ⅲ)」 46

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465 FAX: 0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2019年1月6日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty images on Front page, Sermon View
on page 40

計り知れない賜物

「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神はキリストにあって、天上で霊のもろもろの祝福をもって、わたしたちを祝福し、みまえにきよく傷のない者となるようにと、…キリストにあってわたしたちを選び、わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと、御旨のよしとするところに従い、愛のうちにあらかじめ定めて下さったのである…愛する御子のうちにわたしたちが受け入れられた栄光ある恵みをほめたたえる…わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである」。

年老いた「イエス・キリストの囚人である」パウロが、ローマの牢獄から、自分の兄弟たちの前に満ち満ちた「キリストの无尽蔵の富」、墮落した人の子らに無償で差し出されている恵みの宝をなんとか描こうとして用いたのはこのような言葉であった。…

「わたしたちは、御旨の欲するままにすべての事をなさるかたの目的の下に、キリストにあってあらかじめ定められ、神の民として選ばれたのである。それは、早くからキリストに望みをおいていたわたしたちが、神の栄光をほめたたえる者となるためである。あなたがたもまた、キリストにあって、真理の言葉、すなわち、あなたがたの救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、約束された聖霊の証印をおされたのである。この聖霊は、わたしたちが神の国をつぐことの保証であって、やがて神につける者が全くあがなわれ、神の栄光をほめたたえるに至るためである」。…

人の心の通路を各世代に流れてきたすべての親の愛、人の魂のうちに開かれてきたすべての優しさの源は、无尽蔵の神の愛に比べれば、大洋に対する小さな流れにすぎない。舌はそれを告げることができない。筆はそれを描くことができない。あなたは生涯毎日それを瞑想するかもしれない。あなたはそれを理解するために勤勉に聖書を調べるかもしれない。天父の愛と同情をなんとか把握しようと、神があなたに賜ったあらゆる力と能力を招集するかもしれない。それでいてなお、無限のあなたがある。…世のためにご自分のひとり子を死に渡された神の愛の長さ、広さ、深さ、高さを完全に理解することは決してできない。永遠それ自体もそれを完全に明らかにすることは決してできないのである。それでいながら、わたしたちが聖書を研究し、キリストの生涯と贖いの計画を瞑想するとき、これらの壮大な主題はますますわたしたちの理解力に明らかにされる。そしてパウロがエペソ教会に次のように祈ったときの祝福を自覚するようになる。「どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ、あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るようにと祈っている」(ビュー・アッド・ワールド 1908 年 10 月 22 日)

第9課 天のコミュニケーション・システム(I)

コミュニケーションとは、複数の人や場所の間で、メッセージを交換するための手段です。両者の間柄が深くなればなるほど、効果的なコミュニケーション・システムが必要になります。特に一方が他方に完全に依存している場合は、そうなります。全ての必要を満たしてくださるお方と、継続的かつ生きたコミュニケーションをもつことは、極めて重要です。

この世が創造されて以来、人々は常にコミュニケーション・システムを作り、改善しようとしてきました。アフリカの村々で原住民が、太鼓の音によりメッセージを交換していたのはそれほど遠い昔のことではありませんし、また北アメリカのインディアンたちは、煙による信号を送っていました。19世紀の初頭に、人の知るなかの最良のシステムの一つが、セマフォと呼ばれるもので、ある山頂から他の山頂へメッセージを送っていました。電気が誕生したことにより、無線の電報がマルコーニ氏により発明され、まもなく海上の船と岸にある施設との間で、メッセージをあちらこちらへと打つようになりました。技術が進歩し、電話が登場しました。その後すぐに、ラジオ、テレビ、衛星、ファックス、コンピューターが続きました。今日、わたしたちは宇宙で旅をしている人々から音声を受け取るだけでなく、彼らを見ることができます。

これらの高度に洗練されたコミュニケーション・システムとは別に、広大な全宇宙を網羅し、わたしたちと神との間を直ちにつなぐシステムが存在します。わたしたちが作りたいかなる発明品も、その完全なシステムとは比べものになりません。そのシステムとは祈りです。

祈りとは何か？

祈りとは、「信仰の手がもつ鍵であり、天にある貯蔵庫を開けるものである」と言われています。また祈りとは、「魂の呼吸」、「霊的な力の秘訣」だと述べられています。わたしたちが身体的な生命を維持するために呼吸をする必要があるのとまったく同様に、霊的な生命を維持するために祈りが必要です。クリスチャ

ンであると自称する人々の中でさえ、この生死のつながりを理解している人々はほとんどありません。今日幾百万もの人々が生きていますが、霊的には死んでいるのです。

「これに反して、みだらな生活をしているやもめは、生けるしかばねにすぎない」(テモテ第一 5:6)。

神は身体的な命だけでなく霊的な命を創造することがおできになり、この霊的な生命線を、弱く道を外れた人間と回復したいと切望しておられます。わたしたちが求めさえすれば、神は人間の父親が自分の子供を養いたいと思う以上に、わたしたちの必要を満たしたいと願っておられます。

「あなたがたのうちで、父であるものは、その子が魚を求めるのに、魚の代りにへびを与えるだろうか。卵を求めるのに、さそりを与えるだろうか。このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとすれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さらないことがあろうか」(ルカ 11:11-13)。

祈りはまた、「友に心を開くのと同様に、神に心を開くこと」であると定義されています。あまりにも多くの人々が神について誤った認識をもっています。神は高すぎて、また偉大すぎて、広大な宇宙における小さな惑星に住んでいるわたしたちの個人的な利益に関与されることはないと考えてはなりません。

「わたしは、あなたの指のわぎなる天を見、あなたが設けられた月と星とを思いいます。人は何者なので、これを心にとめられるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか」(詩篇 8:3,4)。

大きすぎて神が担うことがおできにならないものは何もありません。なぜなら、神はこの世界を支えておられるからです。わたしたちの平安にかかわることであれば何でも、小さすぎて神がご覧にならないことはありません。「二羽のすずめは、一アサリオンで売られているではないか。しかもあなたがたの父の許しがなければ、その一羽も地に落ちることはない。またあなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。それだから恐れることはない。あなた方は多くのすずめよりも、まさった者である」(マタイ 10:29-31)。

ある人々は、神は容赦ない裁判官であり、全ての罪人を厳しく罰するための機会を待ちかまえていると考えています。これは真実ではありません。主が、わたしたちに対してどのように感じておられるかを読みましょう。「主は、遠くから彼に現れた。わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは

絶えずあなたに真実をつくしてきた」(エレミヤ 31:3)。

主よ、祈ることを教えてください！

キリストの弟子たちは、自分たちの主人がどのように祈り、またどのように生命を与える力を神から授けられたかを見ました。彼らは、自分たちの主と同じように効果的な祈りをする方法を知りたいと切望しました。「また、イエスはあつて祈つておられたが、それが終わったとき、弟子のひとりが言った。『主よ、ヨハネがその弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを教えてください』」(ルカ 11:1)。

わたしたちもまた、どのように効果的に祈るかを知りたいと切望すべきです。真の祈りは、わたしたちが会得しようとする他の技能と同様に、学ばなければなりません。どのようにして祈り、また何を祈るかを知ることによって、神の偉大なみ力がわたしたちに対して開かれます。わたしたちは最も強い誘惑に耐えることができるようになり、また自分たちの品性のもっとも小さな罪深い性質を克服することができるようになります。

どのように祈るべきかを学ぶことはとても重要ですが、何を祈るかを学ぶことも同じように重要です。わたしたちの必要を神ほど知っている者は存在しません。このお方はわたしたち自身よりもよくご存じなのです。

「御霊もまた同じように、弱いわたしたちを助けてくださる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである」(ローマ 8:26)。

キリストご自身が、マタイ 6:9-13 で、どのように、何を祈るべきか、型を提示していただきました。主の祈りが「われらの父よ」という親愛の情がこもった言葉によって始まっていることに注目してください。全宇宙の創造主を「われらの父よ」と呼ぶことができることは、なんと素晴らしい特権でしょうか！わたしたちの最初に考えることは、自分たちの必要ではなく、むしろ、感謝の念と愛情に満たされた心からの気持ちを表現すべきです。わたしたちは、神の聖なる名をほめたたえるべきです。「御名があがめられますように」。

異邦人が行うような無意味な祈りをしないように注意しなさいという警告が与えられています。なぜなら、祈りにさえ、偽物が存在するからです。「また、祈る場合、異邦人のように、くどくど祈るな。彼らは言葉数が多ければ、聞き入れら

れるものと思っている。だから、彼らのまねをするな。あなたがたの父なる神は、求めない先から、あなたがたに必要なものはご存じなのである」(マタイ 6:7,8)。

型どおりのフレーズを繰り返すことには価値が無く、そのような祈りが応えられることはありません。そのため、わたしたちは「自分たちの祈りを述べる」べきではなく、むしろ心から祈るべきなのです。

個人的な祈りにおいては、自分の最も深い思いを神のみ前に持ち出します。「あなたは祈る時、自分のへやにはいり、戸を閉じて、隠れた所においてになるあなたの父に祈りなさい。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう」(マタイ 6:6)。

わたしたちは美しい文章を作ろうとするのではなく、むしろ、正直な心から、神に語るべきです。神は、心をご覧になります。神は、わたしたちが御前に行く前でさえ、すでにわたしたちの奥深い切望をご存じます。

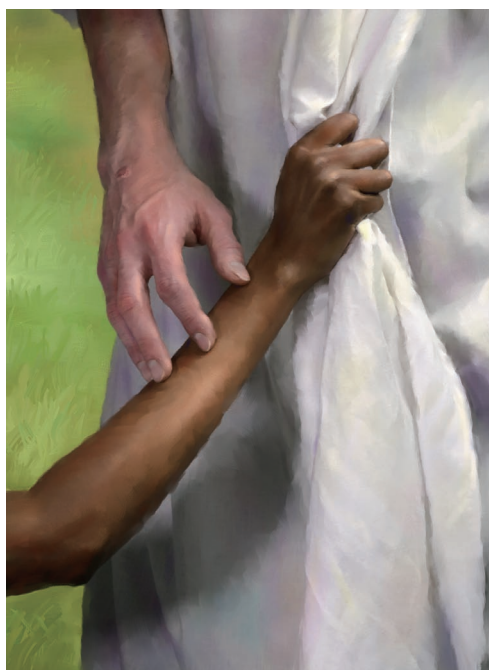
「主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました。あなたはわがすわるをも、立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえられます。あなたはわが歩むをも、伏すをも探し出し、わがもろもろの道をことごとく知っておられます。わたしの舌に一言もないのに、主よ、あなたはことごとくそれを知られます」(詩篇 139:1-4)。

神は、わたしたちの人間の必要や弱さを理解なさらないのではないかと恐れてはなりません。このお方は神であり、あなたは人間であるために、あなたが通過しなければならぬ同じ経験を通してこれなかったと考えるよう、誘惑されてはなりません。「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。だから、わたしたちは、あわれみを受け、また恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか」(ヘブル 4:15, 16)。

効果的に祈るためには、イエスが地上でなされたように、個人的に祈らなければなりません(マタイ 14:23 参照)。しかしながら、わたしたちが神に対して祈ることができない時はありません。祈る時に唇を動かす必要はありません。仕事中、旅行中、混雑した通りを歩いているときに、心から静かな嘆願をささげることができます。

彼を知るために

That I May Know Him



2月

神の啓示であられるキリスト

「神を見た者はまだひとりもない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである。」(ヨハネ 1:18)

キリストは父なる神のご品性をあらわし、罪に陥った人類を贖うために、この世界においでになった。世の贖い主は、神と等しいお方であった。キリストの権威は、神の権威であった。主は御父から離れてはご自分が存在されないと明言された。主が語り、奇跡を行われた権威は、明白にこのお方ご自身のものであったが、しかし主は、ご自分と御父が一つであることをわたしたちに保証された。…イエスは、父祖や預言者、また使徒たちに神の知識を分け与えられた。旧約聖書の啓示は、福音書の中にいっそうはつきりされ、無限であられる御父のご目的とご意志を明らかにしているものである。いにしへの聖人たちを通して、キリストは墮落した人類の救いのために働かれた。そして、この世に來られた時に、罪からの贖いと、神の恩恵への回復という同じ使命を携えて來られた。(ビュー・アソ・ヘラルド 1891年1月7日)

語ることが思想を表すように、キリストは目には見えない御父をあらわされた。主は御父の現れであり、神の言葉と呼ばれておられる。神は御子をこの世におつかわしになった。そして人間が目に見えない神のみかたちを見ることができるよう、主の神性を人性でおおわれた。主はみ言葉、ご品性、み力と大能、神のご性質と特性のうちに明らかにされたのであった。(原稿 77, 1899)

律法制定者としてイエスは神の権威を行使された。主のご命令と決定は、永遠のみ座の権威によってささえられた。父の栄光が、御子の内にあらわされた。キリストは御父のご品性を明らかにされた。キリストは完全に神と結びついておられたので、御子を見る者は、父なる神を見たのであった。イエスの声は神のみ声と同じであった。「わたしが父におり、父がわたしにおられる。」「子を知る者は父のほかにはなく、父を知る者は、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者とのほかに、だれもありません。」「わたしを見た者は、父を見たのである」(ヨハネ 14:11, マタイ 11:27, ヨハネ 14:9)。(ビュー・アンド・ヘラルド 1980年1月7日)

2月2日

家庭におけるキリスト

「三日目にガリラヤのカナに婚礼があつて、イエスの母がそこにいた。イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた。」(ヨハネ 2:1, 2)

その婚礼に出席することによって、彼(キリスト)は、この婚礼を支持し、また、賛成していることを表したいと望まれた。キリストは結婚を禁じたり、家庭の輪の中にある人間関係や感化を壊したり、なくすために、この世に来られたのではなかった。主は地上の家族が天の家族の象徴になれるように、清い感情の流れをすべて回復し、高め、清め、高尚にするために来られたのである。…

母親は天のやさしい保護の下にある。主イエスは教育され、訓練されねばならない小さい子供のいる家庭の戸をどれほど深い関心をもって、たたかれることだろう。主はどれ程やさしく母親の関心事に目を留められ、また、子供がないがしろにされているのを、悲しい思いでご覧になることであろう。…品性は家庭において形成される。人間は、祝福か呪いのどちらかに練り上げられ、形造られていく。主は、家族の中の幼い者が、弱く無力の状態でこの世に生まれた時、母親にその保護をゆだねられた。無限の知恵と無限の愛は永遠の結果をもたらすこの優しい任務を、家庭の仕事の様々な計画や心配を持つ父親たちにゆだねられない。もし婦人が神に心をささげているならその女性の心は、忍耐と愛に満たされている。彼女は自分に任せられた尊い魂を、キリスト・イエスにまで成長させるため訓練するとき、神と、また夫と協力しなければならない。そして父親は神の恵みに信頼しつつ、家庭の帯(ハウス・バンド)という意味である夫(ハズバンド)としての神聖な義務を担うべきである。

性質の柔軟な幼児期や少年期に、神は正しいことについての最も強い感銘をお与えになるであろう。命の君とこの世の君との間に、戦いはいつも続けられている。ここで問題となるのは、母親は自分の子供たちの品性を形造るのに、だれを協力者として選ぶかである。もし母親が愛こそが、彼女の子供たちの魂にとつての鍵であることを学ぶなら、キリストが家庭をまとめてくださり、天来の陽光で満たしてくださるのである。これがキリストを受け入れるすべての家庭における主の働きなのである。(原稿 22, 1898 年)

幼な子らを愛されるお方

「そのとき、イエスに手をおいて祈っていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。するとイエスは言われた、『幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である』。そして手を彼らの上においてから、そこを去って行かれた。」(マタイ 19:13-15)

子供たちは主の嗣業である。キリストを信じる幼な子の魂は、み座をとりまく天使と同様にキリストの御目に尊い。彼らはキリストのもとへ連れて来られ、キリストのために訓練されるべきである。彼らはむなしいことや欲望にふけるのではなく、服従の道へと導かれるべきである。

弟子たちがキリストのもとへ幼な子らを連れてきた母親たちを追ひ払おうとした時、キリストは「幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である」とおおせになって、弟子たちの狭い信仰を譴責された。キリストは身許へ幼な子らを連れてきた母親たちを弟子たちがとがめるのを悲しまれた。またご自分に従う人々が言葉や行動によって、このお方の恵みには制限があり、子供たちは身許に近づけないようにすべきだと言うことを悲しまれた。……

両親には、大きな責任が課されている。なぜなら、子供や青年たちの永遠の運命を決める教育と訓練は、幼年時代に受けるからである。両親の働きは、彼らの子供たちの心にたゆまず勤勉に良い種をまくことであり、彼らの心を正しい習慣と正直、また心からの従順という収穫をもたらす種で満たすことである。青年のうちに形成された正しく、道徳的にすぐれた習慣は、たいていは生涯を通して個人の進路を定める。ほとんどの場合、神を敬い正しいことを尊ぶ人々は、この世が罪の姿をその魂に刻みつける前に、この教訓を学んでいることがわかる。

ああ、両親がまことに神の息子、娘であつたらよいのに。彼らの人生は良い働きによって芳しくなるであらう。聖なる雰囲気は彼らの魂を包むであらう。聖霊の恵みと導きを求める両親の熱心な嘆願は、天に昇っていき、太陽が輝かしい暖かい光を地上にくまなく照らすように、宗教は彼らの家庭の隅々までいきわたるのである。……(ビュー・アンド・ヘラルド 1897年3月30日)

2月4日

少年少女のためのメッセージ

「子らよ、来てわたしに聞け、わたしは主を恐るべきことをあなたがたに教えよう。」(詩編 34:11)

すべての子供、すべての青年は、「わたしは神の御目に価値のあるものである。わたしは代価をもって買いとられ、イエス・キリストのものである。わたしはキリストに従う者として、キリストの徳を実行すべきである。そうすればわたしは、救い主を表すことができる」ということを心に銘記すべきである。

たくさん祈りなさい。あなたが仕事に従事しているとき、心を神にまで高めなさい。あなたが魂の守りを神にゆだねたとき、立ち去って自分が捧げた祈りと正反対の行為をしてはならない。祈りと同時に誘惑に勝利するよう見張りなさい。悪いことをしようとする最初の傾向に抵抗しなさい。「イエスよ、わたしを助けてください。わたしを悪から守って下さい」と祈り、そして、あなたが知っているキリストのお喜びになることを行いなさい。…

他の多くの人々がしたように、どうやってわたしはイエスに受け入れられ、愛されていることを知るができるだろうかと疑問に思うかもしれない。自分の感情だけでそれを知ることができるであろうか。否、主の聖なるみ言葉に従うことによってである。神の豊かなみ約束を自分のものとしなさい。イエスが信仰によってあなたの心に住んでおられるという主のみ言葉を信じなさい。神への信仰と信頼によって、あなたは神の平安を得ることができ、そのとき「わたしは、わたしが信じてきた方を知っている。わたしは聖霊のすべてのささやきに聞き従う」と言うことができる。

勝利するには唯一の方法しかない。あなたは神を愛しているのだから、心をつくして神に仕えなさい。神を愛し、神があなたにとってどういう方であるかを知っているのだから、日毎に神を求めなさい。主の御目以外にだれもあなたの働きを見ていなくても小事に忠実でありなさい。キリストのために奉仕しているということを覚えていなさい。あなたは神に奉仕することによって、今、毎日、貴重な経験を得ているのである。あなた自身の魂に真理の原則を植え付け、あなたの品性の中にキリストをあらわしなさい。ありきたりの低い標準で満足してはならない。…あなたは品性にキリストをあらわすことができるのである。

もしあなたが主の選ばれた民が歩くようにと築かれた狭い道を、一步一步進んで行きたいなら、絶えずイエスを見上げ、心の中で言いなさい。「おお神よ、わたしはあなたを求めます。あなたに仕えます。あなたの導きの下に、わたしは前進することができ、そして前進します」と。(手紙 1895,96)

子供伝道者の軍団

「幼な子でさえも、その行いによって自らを示し、そのすることの清いか正しいかを現す。」(箴言 20:11)

神は、子供たちや青年たちが主の軍隊に入ること望んでおられる。…子供たちは、年長の兵士たちと同じように、右にも左にも、強い誘惑にあわねばならない。サタンとその配下は、青年たちをわなにかけようとしてあらゆる策略をめぐらす。子供たちが主の軍勢に加わり、他の人にも彼らの隊列に加わるよう説得しようと努めるのは彼らの特権である。子供たちはイエス・キリストのために教育され、訓練されなければならない。子供たちは誘惑に抵抗し、信仰の良い戦いを戦わねばならない。訓練を理解することのできる分かりやすい単純な言葉で語ると同時に、彼らの心をイエスに向けなさい。自制することを教えなさい。若い時に、勝利するという働きを始めるように教えなさい。そうすれば彼らは両親の信心深い努力に合わせて、イエスがおできになり、またお与えになる貴重な助けを受けることができるであろう。誘惑に抵抗し、イエス・キリストから与えられる恵みを通して勝利者として出てくるために彼らが戦っている戦いのため、彼らを勇気づける言葉で励ましなさい。…

両親は、記憶の部屋にキリストが仰せになった尊い言葉を掲げておくべきである。子供たちは、彼らが両親の口からたびたび聞かされたみ言葉、すなわちキリストの言葉、信仰の言葉、そして真理の言葉をくりかえすようになるであろう。子供たちが貴重な真理を語るかもしれない。彼らはまだ子供の年令であっても、子供の軍団全員は伝道者としてキリストの旗の下に集まることができる。イエスのために何かしたいという子供たちの願いを決して拒絶してはならない。主のために何かの方法で働きたいという彼らの熱意を、決して抑制してはならない。正しく教育された子供たちは、イエス愛することを学び、そしてもし彼らが犯すどんな罪でも救い主を悲しませていることを知るなら悲しむことを学ぶのである。あなたが自身の言葉と模範によって、彼らの心を柔和に、また感じやすく保ちなさい。(原稿 1895,55)

神の御使たちは、常にあなたの子供たちの近くにいる。…愛と柔和、また忍耐と自制が常にあなたの言葉の法則となるようにしなさい。あなたの子供たちを治める際に、魂を勝ち取る愛が深い流れのようにたえず流れて出ているべきである。ご自分の生涯を通して、キリストは子供たちに愛と柔和を実行されたのである。(レビュー・アンド・ハラルド 1898 年 5 月 17 日)

2月6日

貧しい人々への伝道

「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ。」(ルカ 4:18)

人類の苦しみは、キリストの心にふれ、この方の同情と愛を呼び起こした。キリストは魂や肉体が苦しんでいる人々にあわれみと同情を寄せられた。苦しむ者を扱われたキリストの模範によって、主の被造物の苦しみに対して、わたしたちはどのようにあわれみと同情を持つのかについて教えを学ぶべきである。

キリストは肉体的に苦しまれた。…彼は餓えに苦しむのがどういうことであるか知っておられたので、空腹の人に食物を与え、助けを必要としている貧しい人々を世話することについて、特別な教訓をお与えになった。そして貧しい人々に奉仕することは、わたしたちが主の聖徒を通して主ご自身に奉仕しているのであると、はっきり仰せになった。主は「わたしが空腹の時に食べさせ」と言われている(マタイ 25:35)。主はかわきの苦痛と不快を知っておられ、ご自分の弟子のだれにでもみ名のゆえに冷たい水を一杯与えるものは、報いを受けずにいることはないと言せになった。(原稿 35, 1895)

キリストは活動的な忠実な働き人であられた。日常生活にとってはあまりに聖なる事柄であるとして、宗教の模範が、高く険しい壁で隔離されているのをキリストは発見された。主は形式の壁を打ち壊し、ご自分を必要としているすべての人々のためにご自分の助けの力をお与えになった。主は気落ちしている人に喜びと希望をもたらされた。…キリストはあなたの信条は何ですかとか、あなたはどの教会に属していますか、などとお聞きにならなかった。活動的で熱心な愛情深い関心が主の生涯を特徴づけていた。…

主イエスは貧困の意味を知っておられる。主は貧乏な人、病める人、苦しむ人に対する偉大な伝道者である。天の王であられる主は、富裕階級の人生を送り、大金持ちの間で生活することもおできになったが、貧困をお選びになった。そして主はご自身を信じる貧しい人々を尊ばれた。なぜなら、このお方は永遠に彼らを祝福されたからである。キリストと共にある貧困は、最も価値のある富である。この貧困は、聖別され、祝福される。…

キリストの人性の中に、主を信じ頼っている貧しい人を、無限の愛であられる主ご自身の魂に結びつける黄金の糸があるのである。(原稿 22, 1898)

模範の人

「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。」(コリント第二 8:9)

この世界に、天の至高者であられる神の御子が来てくださったのである。……キリストは、神のみ心、精神、ご性質、ご品性を現わすために、この世に來られた。……しかし主は、その王衣と王冠を脱ぎ捨て、その高い統治のみ座からおりて、僕のかたちをとられたのである。彼は富んでおられたが、わたしたちが永遠の富を得るために、貧しいものとなられた。彼らはこの世界をお造りになったが、ご自身を完全に注ぎだされ、ご自分の伝道中、「……人の子にはまくらする所がない」と仰せになった。……

キリストは人性をおとりになり、人類のかしらとして立たれた。主の態度には愛と同情が満ちていたので、もっとも貧しい人も恐れずにみもとへ行くことができた。主はすべての人に親切であつたので、もっとも身分の低い人も、容易に主に近づくことができた。キリストは家から家を訪れては病の人をいやし、飢えている人に食物を与え、悲しむ人を慰め、苦しむ人の苦しみをやわらげ、落胆している人に平安の言葉をお語りになった。主は幼子を抱き上げて祝福し、疲れた母親に希望と慰めの言葉をかたられた。尽きることのない思いやりと柔和とをもって、主は人類のあらゆる形態の悩みや苦しみに対処された。ご自身のためではなく、他の人のために主は働かれた。主は喜んでへりくだり、自己を否定された。主はご自身を目立たせようとはなさらなかった。主はすべての者の僕であられた。そして日ごとに交わる重荷を負う人や悲しむ人を喜ばせ、他の人々に慰めと助けを与えることが主の食物であり飲み物であつた。

キリストは後に続くすべての人にとっての模範、すなわち偉大な医事伝道者であり、人の手本としてわたしたちの前に立つておられる。主の愛と純潔、神聖は、その感化の圏内にきたすべての人を祝福した。主のご品性には罪の汚れは少しもなく、まったく完全であられた。主は神の完全な愛を表すためにおいでになったのであり、滅ぼすためでも、裁いたり、罪の宣告をするためにおいでになったのでもない。あらゆる弱さ、欠点のある品性を癒し、サタンの力から男女を救い出すためにおいでになったのである。主は創造主であり、贖い主であつて、人類の伸保者であられるのである。(医事伝道 19, 20)

2月8日

柔和、愛、同情

「しかし主よ、あなたはあわれみと恵みに富み、怒りをおそくし、いつくしみと、まことに豊かな神でいらされます。」(詩編 86:15)

神は、わたしたちに大きな悲しみが襲う時、思いやりと愛のある態度で互いに慰めあうべきであると、奉仕のおきてに従ってお定めになった。だれも自分一人で生きてはいけなし、自分一人で死んでいく人もいない。すべての人間にとって、生も死も何かを意味している。……神は、ご自分の品性を伝達するようゆだねられた人間の代理人に、ご自身の清められた、やさしい、あわれみに満ちた愛を明らかにすることによって、ご自身の恵みと知恵と慈愛を証する義務をお与えになった。……イエスは、……人間の苦悩に常にふれられた。それによりわたしたちの心が主の聖霊によって、和らげられ、静められて、わたしたちが主のようになるためであった。……

わたしたちの働きは、イエス・キリストによって神がわたしたちにお与えになる豊かな恵みを通して、人間のうちに神のご品性を回復することである。わたしたちはどこにでも死にかかっている魂を見出すことができる。寛容と同情を示さず、わたしたちが一人の魂でも決して無視することがないようにと、キリストの同情がご自身からわたしたちに与えられるということはどれほど必要なことであろうか。……わたしは、わたしたちがキリストの優しさを常に学んでいるかということを探ねたい。わたしたちが品性の中に主をあらわすには、イエスと天の父をどれほどたくさん知る必要があることだろう。……

イエスはわたしたちを単に数時間の間ご自分の恵みと臨在によって元気づけ、そして悲しみと陰鬱な生活とご自分から離れて歩むためにご自分の光の中からわたしたちを送り出すために招いておられるのだろうか。否、否。主はわたしたちがご自分と共に住み、ご自分がわたしたちのうちに住まなければならないと、わたしたちに語っておられる。主の働きがなされる所にはどこにでも主は臨在され、柔和、愛、同情を表される。主はご自身のうちにあなたとわたしが共に住む場所を用意されている。主はわたしたちの隠れ家である。わたしたちの経験はもっと広くもっと深くなるべきである。イエスは表現することのできないご自身の聖なる愛のすべてをあらわして、あなたに仰せになる。あなたは「神の同労者である」(コリント第一 3:9) と。「わたしにつながっていないさい」(ヨハネ 15:4)、「わたしのくびきを負うて」(マタイ 11:29)。これらの言葉は、なんと素晴らしい意味をもっていることだろう。わたしたちはくびきを負っているだろうか。約束は「そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」である。キリストの内に住む時に、休み、完全な休息があるのである。(手紙 1894 年)

わたしたちが あずかることのできる特性

「あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。」(ルカ 6:36)

慈悲は、神を代表する代理人が、神と協力する時にあずかることのできる特性である。慈悲は親切やあわれみ深いことである。慈悲と神の愛は、魂を清め心を美しくし、生活を自己中心から清めてくれる。……

天使の軍勢に対する神の愛は、神ご自身の一部のようにその神性がはっきりとしており、明確である。人類に対する神の愛は、特別なかたち、すなわち人間がすべてそれを受けるに値しないので、慈悲による愛となった。……

慈悲は、それが与えられる対象が不完全であるという意味を含んでいる。人間の不完全さのゆえに、慈悲は自発的に生じた。罪は神の愛の対象でなく神の嫌悪されるものである。しかし、神は罪人を憐れまれる。なぜなら罪を犯した人は創造主のみ姿を身につけており自分自身の価値によるのではなく、ただイエス・キリストの負われた功績により、また罪びとの救いのために払われた救い主の大きな犠牲を通して、神の子となる力を受けたからである。

戦っている教会の中で人の子らは罪の結果から常に回復される必要がある。……わたしたちはみな互いに依存している。ある点で他の人よりもすぐれている人は他の点では劣っているのである。地上に住むすべての人は誘惑を受けやすい。そしてすべての人は他の人の感化と同情を必要としている。……慈悲をあらわすことによって神と協力する人は、神が慈悲を施される場所へ自分を置く。この人は神の特性と調和しているからである。

神の愛と慈悲は常に罪びとに対して差し伸べられている。自分自身が神に対して罪を犯している者が、悔い改めた罪びとを許したり、受け入れたりすることを拒否したりできるだろうか。……神はわたしたちがまだ罪びとであつたとき、わたしたちを愛してくださった。「人々にしてほしいとあなたがたの望むことを、人々にもそのとおりにせよ」というみ言葉によって(ルカ 6:31)、なんと明白にまぎれもなく義務が表されていることであろう。…キリストと共に歩む者だけが真に慈悲深くなることができるのである。(手紙 202, 1901 年)

2月10日

憐れみのある癒し主

「イエスは舟から上がって、大ぜいの群衆をごらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった。」(マタイ 14:14)

尊い救い主イエスは、罪の病に陥った魂や、あらゆる種類の病にかかった病人のつぎることのない要求にも決して疲れを見せられなかった。「イエスは舟から上がって、大勢の群衆をごらんになり、……その有様を深くあわれ」まれた(マルコ 6:34)。苦しむ者にとってこれは重大な意味がある。主は人々の関心とご自分の関心をついにされた。主は彼らの重荷を共に負われた。そして彼らの恐れを同じようにお感じになった。キリストはその心に痛みとなったほどの強い同情を持たれた。

ああ、なんという愛!なんという比類のない愛であろうか。主は人類のすべての経験を共にするために、わたしたちと一つになられたのである。イエスはすべての点においてわたしたちと同じように誘惑されたが、しかし罪は犯されなかった。人性はそれによって、ありきたりの安価な欠陥の多いものになることではない。キリストは人類がキリストの義を着るために、ご自身の神性に人性をまとわれた。人間は、キリストの配慮と偉大な愛の対象である。

あがない—おお、この言葉の中に、どれほど多くのことが含まれていることであろう!あがなわれることに同意する者はすべて、高められ、清められる。そしてイエス・キリストを通してすべてのつまらない、世俗的な事柄から自由にされ、救いの大いなる働きに神と協力することができる。イエスは人性をお受けになって、神のみ摂理のうちに人が人生においてもっとも貧しい環境に置かれる時でさえ表すことのできる生涯と品性をご自身の生涯とご品性で表された。イエスは要求された税金を払うための一枚の硬貨さえもっておられず、少額の金を得るために奇跡を行われた。

尊い救い主イエスは、家がなく、しばしば空腹に苦しみました。主にはまくらす所もなかった。主は、しばしばお疲れになった。人間が到達することのできる状態を世に示すためにイエスが人性をとられたので、人間は名誉を受けている。主は命と不死を明らかにし、人生のありふれた地味な仕事を輝きで満たすために来られた。イエスはわたしたちの上に身をかがめ、わたしたちの品性の中に主ご自身の品性が反映されているかどうかを探しておられる。(手紙 119, 1893 年)

わたしたちの苦悩を負われる方

「これは、預言者イザヤによって『彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた』と言われた言葉が成就するためである。」(マタイ 8:17)

キリストだけが、多くの者の苦悩を負うことができた。「彼らのすべての悩みのとき、主も悩まれ」た(イザヤ 63:9)。主はご自身の肉体に病を負われたことは一度もなかったが、他の者の病を担われた。キリストはこの上なくやさしい同情をもって、ご自分のまわりに押し寄せる苦しんでいる人々をごらんになった。主は、人々のあらゆる災いの中にあらわれているサタンの働きをごらんになって、心から悲しまれた。そして一つ一つの欠乏や悲しみをご自身のものとされた。どんなに多数の群衆も主はいとわれなかった。どんな苦悩にも主は圧倒されなかった。決してひるむことのない力をもって、主は苦しみによって触れていた者の心と肉体をとらえている悪霊を追い出された。そしてこのお方のすべての癒しには、愛の力があつた。主は苦しんでいる人間とご自分の関心を一つにされた。

キリストはご自身では健康で強くあられた。そして病人がご自分の前に来ると、いつも病気は、譴責された。主がすぐにラザロの所にいかれなかったのもこの理由のためであつた。主はラザロの病気をごらんになることができなかつたので、彼に救いをもたらすこともできなかつた。主はサタンの力と結びつけることなしには、病の死もごらんになることはできなかつた。ラザロの死は彼の復活を通してイエスが神の御子であるという最後のそして最高の証拠がユダヤ人に与えられるためであつた。

悪の力との、この闘争すべてに、主ご自身が入らねばならない暗黒の影がずっとキリストの前に存在した。主の前にはいつも、これらの魂のために身代金を払わねばならない手段があつた。……主はラザロを死からよみがえらせられたとき、カルバリーの十字架で、ラザロの生命のために身代金を払わねばならないということを知っておられた。救出がなされるたびに、このお方に最も深いへりくだりをもたらすのであつた。主はすべての人のために死を味わわねばならない。……キリストのもとに連れてこられた多くの病人について「彼らを皆いやし」と記されている(マタイ 12:15)。このようにキリストはご自身の愛を、人の子たちに表された。主の奇跡はご自身の使命の一部であつた。……主は「なおりなさい」という言葉を言われるとき、その条件を知っておられる。病人が癒されたとき、主は「お帰りなさい。もう罪を犯してはいけない」と言われるのである。(原稿 18, 1898 年)

2月12日

天の宝を共有

「ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」(マタイ 10:8)

尊い救い主は、律法のみ教えに生きることの模範をわたしたちに示された。主は、ご自分に従う者たちに、「ただで受けたのだから、ただで与えるがよい」と言われている。わたしたちは天の豊かな富を受けるために開いた心を持つべきであり、またわたしたちの心は他の人にこれらの豊かな宝が出ていくよう開かれているべきである。ああ、わたしたちはキリストの中に宿る必要がある。そのときわたしたちは、神がご自身の恵み深い御霊をわたしたちの兄弟や世に伝達なさる不断の水路となるのである。……

わたしたちが自分自身の救いの輝かしくはっきりした確信を持つとき、喜びと、歓喜を表す。これは、イエス・キリストに従う者に似つかわしいものである。神の愛の和らげ、穏やかにする感化は、実際の生活に取り入れられて命から命に至らせる香りとなって、人々の心に印象を与えるであろう。しかし、荒々しい非難する精神は、もしそれが表されると、多くの魂を真理から敵の陣営に追いやってしまうことになる。これは厳粛なことである。試みられている人に、忍耐強く接することは、わたしたちに自我との戦いを要求する。しかし、神はイエスをわたしたちに与えられた。そして主をわたしたちの個人的な救い主として信じるなら、全天はわたしたちの求めに応じられる。キリストが買われた財産は、わたしたちの手の届くところにある。欠乏と、不幸と、罪がいたるところに存在している。「ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」

ああ、人の心は傷つき無感覚である。

家々は裸で、寒さにさらされている。

羊飼いがそのために血を流した小羊たちはおりから迷い出ている。

とらわれ人を放ち、失われた人々を神に連れ帰り

命と平和の道を教えること

それはキリストの教えに合うことだ。(手紙 1894 年)

最も偉大な教師

「さらに、神の子がきて、真実なかたを知る知力をわたしたちに授けて下さったことも、知っている。そして、わたしたちは、真実なかたにおり、御子イエス・キリストにおるのである。このかたは真実な神であり、永遠のいのちである。」(ヨハネ第一 5:20)

世の救い主は、派手な外観や世の中の知恵を誇示して来られなかった。人間は謙遜の装いの下にある神の御子の栄光を見ることができなかった。……

キリストは人々のいるところで彼らに手を差し伸べられた。主は明白な真理を、最も力強いそして単純な言葉で人々の心にお示しになった。みすばらしい貧乏人も無学なものもキリストを信じる信仰によって神の最高に高められた真理を理解することができた。だれも神のみ教えに関して学識のある博士たちに説明してもらう必要がなかった。主は神秘主義的推論や人々がその知識を持っていない一般的でない学問的用語を用いて無知の人々を困惑させたりはなさらなかった。世がこれまでに知った最も偉大な教師は最もはっきりした単純で实际的な教えをされた。

生活の純潔さ、精神の謙遜、そして世的な名誉や利益を望まない神とそのみ事業への献身に、主は人々の注意を向けられた。主は宗教を重荷や非難的にする偏狭なうぬぼれの強い形式主義の宗教の衣をはぎ取らなければならなかった。主はすべての人に完全で調和の取れた救いを示されなければならなかった。民族的排他主義という偏狭なきずなは廃止しなければならなかった。なぜなら主の救いは地の果てにまで達するべきものであったから。ご自分がもたらされた尊い使命をこの世の中の貧しい人々が熱心に受け入れるのをごらんになって主は心から喜ばれた。主は天を見上げて言われた。「天地の主なる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを知恵のある者や賢い者に隠して幼子にあらわしてくださいました」(マタイ 11:25) ……。

最高の教育や教養を身に着けた人々は、世の中が「無学な者」と呼んだ、キリストに従う身分の低い者たちの模範や教訓からもっとも尊い教えを学んだのであった。しかしこの人々がもっと深い洞察力で見ることができれば、これらの卑しい人々があらゆる学校の中で最高の学校、人間がかつて語ったことのないように語られた天来の教師の学校で教育を受けた者であるということを、知ったことであろう。(ビュー・アノド・ワルド 1888 年 4 月 17 日)

2月14日

深く教える

「下役どもは答えた、『この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした。』」（ヨハネ 7:46）

キリストのみ教えについて「大勢の群衆は喜んでイエスに耳を傾けていた」と言われている（マルコ 12:37）。主をとらえるためにつかわされた下役どもは「この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした」と言った。キリストの言葉は、この方だけが与えることのできる平和に飢えていた人々を慰め、力づけ、祝福された。キリストは、なんというやさしい忍耐深い方であられたことか。貧しい人々や、苦しんでいる人々、しいたげられている人々に、主のみ教えは、なんとあわれみと思いやりに満ちていたことであろうか。……主の譬は日常生活の事柄からとられた。そして……それらに驚くべき意味の深さを与えられた。大空の鳥や野の百合、また種や羊飼いと羊、これらのものを使って、キリストは不滅の真理を説明された。そしてその教えを用いた後で、人々は、自然界のこれらのものを見る機会のあるたびに、主の言葉を思い出したのであった。……

そのみ言葉を聞く人々に慰めと喜びを与えたキリストの言葉は、今日のわたしたちにもそうである。忠実な羊飼いは自分の羊を知って世話するように、キリストもご自分の子供たちを世話してくださる。主は一人一人を取り巻いている試練と、困難を知っておられる。イザヤは「主は牧者のようにその群れを養い、そのかいな小羊をいだし、そのふところに入れて携えゆき」と言っている。キリストはご自分の羊をよく知っておられ、苦しんでいる者や、無力な者が、主の特別な配慮の対象となっている。キリストは、すべての人々の苦しみや、悲しみを思いやられた。主は、ご自分とくびきを共にするすべての魂のためにくびきの重荷を負われる。主はわたしたちが、自分の存在の根底において感じ、しかも表現することのできない悲しみを知っておられる。人の心にわたしたちへの同情が起こらないとしても、わたしたちは同情を受けていないと感じる必要はない。キリストが知っておられる。わたしを見てそして生きよと言っておられる。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」（マタイ 11:28）。わたしはあなたの病を負いあなたの悲しみを負った。あなたは、あなたの羊飼いの優しいあわれみの愛の中に、もっと深い、最も豊かな同情を持っている。……主の人性は、主の全能の高められたご性質の中に、失われてはいない。主は、今もご自分が選ばれた人々、ご自分の招きに答えようとする人々の上に、ご自身の同情と愛を注ぎ出そうと切望しておられる。（ビュー・アード・ハルド 1897年5月18日）

よき羊飼いでえられるキリスト

「わたしはよい羊飼であって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。それはちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。」(ヨハネ 10:14, 15)

イエスは、「わたしは、わたしの羊を知っている」と言われる。この言葉を考えてみよう。わたしたちは神を受け入れる前に、神に知られているのである。「わたしは、わたしの羊を知っている。」魂はどのようにして、キリストの羊になれるのであろうか。キリストを選ぶことによってである。しかし、キリストがまず、彼らを選んでおられたのである。主はご自分の招きに応じるすべての人を知っておられた。また主はご自分を受け入れたいと思いながら、一般的な反対勢力にあって、ご自分から離れてしまう人々をも知っておられた。ヨハネはすべての人に「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と言っている(ヨハネ 1:29)。この声を聞いて、イエスを神の小羊として見つめた者は、主を信じて彼ら自身の選択によって、主の財産となったのである。しかし、……彼らがキリストを選んだのは、主の引き寄せる力に応じたものであった。イエスの愛はわたしたちが主を愛する前に、わたしたちにあらわされたのである。

羊の群れが、羊飼いにまかせられているように、全人類の家族は、イエスにまかせられている。これらの羊や、小羊たちは、羊飼いの世話を受けなければならない。彼は忠実な大牧者によって守られ、その下で働く忠実な羊飼いたちの世話を受けるのである。そしてもしこの羊たちが大牧者の声に従うならば、彼らは取り残されておおかみに食い尽くされるようなことはない。……

イエスは「わたしの羊はわたしの声に聞き従う。……彼らはわたしについて来る」と言われている(ヨハネ 10:27)。イスラエルの羊飼いは、ご自分の群れを追い立てないで、導かれる。主の態度は、まったく招待の態度である。「わたしの羊はわたしの声に聞き従う。」もしわたしたちが、本当に神の息子、娘であるならば、わたしたちは声を聞くだけではなく、他のすべての声に勝って、その声を認める。わたしたちはキリストのみ言葉を感謝する。そして真理がイエスの内にある時、わたしたちはその真理をすべての誤謬から区別する。そして、真理は魂を生き返らせ、喜びで満たしてくれる。……

黙示録 7 章の美しい実例は、羊の群れの象徴である。「彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。御座の正面にいます小羊は彼らの牧者となって命の水の泉に導いてくださるであろう……」(黙示録 7:16, 17)。(手紙 20, 1895 年)

2月16日

牧者のふところ

「主は牧者のようにその群れを養い、そのかいな小羊をいだし、そのふところに入れて携えゆき、乳を飲ませているものをやさしく導かれる。」(イザヤ 40:11)

真の牧者は、自分の助けを最も必要としている羊すなわち、傷ついたり、びっこをひいていたり、弱っているものを知り、あわれみ、助けられる。「主は牧者のようにその群れを養」われる。

父祖ヤコブが、自分の羊のうちの弱いものや苦しんでいるもの、またはかたわらのものを知っていたよりも、もっとはるかに詳しく、大牧者はご自分の群れを知っておられる。主は、他のだれもが知らないことを知っておられる。主はあらゆる重荷をご自身で負われた。だれも主ご自身が負われたような重荷を知らない。なぜなら主は、わたしたちの苦悩をすべて負われ、わたしたちの悲しみをすべて担われたからである。それが主を悲しみの人で、病を知る人にさせたのである。……

この宇宙であなたを顧みてくれる人が他にいなくても、イスラエルの主なる神は、同情と、優しさと、思いやりに満ちたみ心であなたを見ておられる。主はあなたが気落ちし、失望したときに、あなたに強い衝動があるのをご覧になる。……あなたには、大牧者のふところに最も深く、最も豊かな、そして最も元気づける思いやりがある。わたしたちにはわたしたちの弱さを思いやることのできないような大祭司がおられるのではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについてわたしたちと同じように試練に会われたお方なのである。……

あなたが助けと、力と、恵みを必要とするような、試練や誘惑に会ったとき、必要な備えがなされたばかりではなく、また、他の人の心に対するあなたの感化が良い香りとなるためにも必要な備えがなされてきた。キリストは、すべての魂を知っておられ、その魂の誘惑や、試みをも知っておられるだけでなく、心をいらだたせ悩ます環境をすべて知っておられる。あなたにとって最大の危険は自分に満足している時である。これはクリスチャンのためにならない。キリストは、あなたが求めるなら、ご自分の忍耐力をあなたに下さるであろう。……

神のあふれるばかりの愛とご臨在は、自己統御の力をあなたに与えられる。主はあなたの心と品性を鍛え、形造られる。主はあなたの目標と目的と能力を導いて、あなたに道徳的かつ霊的な力を与える水路へと向けてくださる。それらの力は、あなたがこの世に残していく必要がないもの、携えて行き永遠に保持できるものである。(手紙 46, 1898 年)

神の子

「しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。」(ヨハネ1:12)

キリストが来られたとき、人間はどのように主を扱っただろうか。……「彼は自分の所に來たのに、自分の民は彼を受け入れなかった」(ヨハネ 1:11)。今日もそうである。この歴史は繰り返されている。そして主が天の雲に包まれて、おいでになるまで、何度も繰り返されるであろう。サタンの欺きが地上に住む者をおおう。……

「しかし、彼を受け入れた者……には、彼は神の子となる力を与えたのである。」……地上の住居としてこの世界が造られたとき、神はそれをごらんになってそれを喜ばれ、はなはだ良いと言われた。このようにキリストを自分の救い主として受け入れることにより、神の子となる力を獲得した人々によってなされる改革を神は受け入れ喜んでくださる。……

コロサイ第一章は、わたしたちに到達する特権の高さを示している。わたしたちは「あらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、……主のみ心にかななった生活」を営み「あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至る」であろう。また「神の栄光の勢いに従って賜るすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び、光のうちにある聖徒たちの特権にあるあずかるに足る者とならせてくださった父なる神に、感謝する」であろう。「神はわたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。わたしたちは、この御子によって贖い、すなわち、罪の許しを受けているのである」(コロサイ 1:9-14)。

罪に打たれ罪に呪われたこの地上には、「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」というメッセージを伝える働きに献身するようにわたしたちを導くだけの苦悩がないであろうか。(ヨハネ 3:16)。この世界は、神の御子がかつて歩まれたところである。御子は人間に光と命をもたらし、罪の奴隷から解放するために来られた。御子は、生涯をかけてご自分のみ足のあとに従ってきた人々をご自身に受け入れるために、力と大いなる栄光のうちに来られるのである。(手紙 117, 1903 年)

2月18日

人が協力する時

「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。」(ピリピ 2:13)

「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその中に入って彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう」(黙示録 3:20)。このように世の贖い主は、人間の心に働く聖霊の働きを例をあげて説明しておられる。生きた代理人(人)は、自分自身の信仰の行為によって、自らを主の御手のうちに置く。それはこのお方の時にしたがって、このお方の良しとされることを自分のうちになしていただくためである。キリストのうちにいて、キリストのうちにとどまり、信仰によってこのお方のうちに宿るために、絶えず信仰を働かせなければならない。

これは訓練の過程、すなわち思いと心の継続的な訓練であり、それによってキリストが人間の心の中で、ご自分の偉大な働きをなさるのである。自我すなわち古い生まれながらの自我は死んで、キリストの意志が、わたしたちの意志となる。主の道がわたしたちの道となり、人は精神と心と知性においてもはや、悪ではなくキリストの義を行う神のみ手の器となる。……

天の配剤においては、神は人間の協力なしには何事もなさらない。神は人の意志を強制なさらない。人の意志は主に完全に与えられなければならない。さもないと、主は、人間を通してなさる主の聖なる働きを完成することはおできにならないのである。イエスはある場所で、人々の不信仰のゆえに、彼らの間で多くの力あるわざをなすことができないと言われた。主は彼らが何をしていただく必要があるかをご存じだったので、まさにそれをその場所で彼らのためにしたいと望んでおられた。しかし不信仰が道を閉ざしたので、それをするのがおできにならなかった。土の器もすえつくりの手に置かれなければ、誉れあるものに形造られないのである。クリスチャンの生涯は、日ごとの自己の明け渡し、服従、そして絶えず続く勝利、毎日新しい勝利を得ていく生涯である。これはキリストの内に成長し、聖なる模範であられる方の内に生涯を形造っていくことである。……

献身、経験、そして全人的聖化は、わたしたちの義であるイエス・キリストを通して実現される。神の愛は、絶えず求められる必要がある。わたしの心はいかにイエス・キリストの愛を求めて、生ける神に叫ぶことか。わたしは自我という視力を失いたいのである。(原稿 24, 1890 年)

あなたは主を招き入れますか

「主は遠くから彼に現れた。わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた。」(エレミヤ 31:3)

キリストのみ心に最も喜ばれる働きは、魂をご自分に引き寄せる働きである。……天の王であるイエスを見よ。*『あなたは、主のご生涯の歴史に何を見るであろうか。人性でおおわれた主の神性、絶え間ない謙遜を示された全生涯、次々と示される親切な行為、天の宮廷から、呪いへ麻痺し損なわれた世界に降りてこられた道、また主は主のご臨在になるには価値のない世界で低くさらに身を低くされ、僕のかたちをお取りになり、人々にさげすまれ、拒まれて、ご自身の命を救うために場所から場所へのがれることをよぎなくされ、ついには裏切られ、拒まれ、十字架につけられたのであった。そして、わたしたちのために罪人としてイエスは死をまぬがれない人間の力で描くことのできる以上の苦しみを受けられた。それを考えると、わたしたちは自分の高慢な意志を謙遜にしようと思わないでおれようか。

昼も夜もキリストのご品性を学びなさい。主にあらゆる辱めやののしり、また虐待や世の誤解を耐え忍ばせたものはあなたの魂に対する主の言語に絶する、比類のない愛であった。主にもっと近づきなさい。そしてわたしたちののがのために傷つけられ、打たれた主のみ手とみ足を見つめなさい。「われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」

時を無駄にしてはならない。もう一日も永遠に過ぎ去らせてはならない。あなたのそのままの状態でああなたの弱さやあなたの無価値さ、あなたの怠慢が何であったとしても、今来ることを遅らせてはならない。……ご自分のところにくるようにとのイエスの招き、色あせることのない栄光の冠の提示、命、すなわち神の命で測られる永遠の命も、これまであなたをあなたの二心のない愛情で主に奉仕するように導く、十分な動機ではなかったのである。……

これ以上、疑いというサタンの側に立つてはならない。あなたに与えられた神の恵みに従って決心をし、徹底的に変わりなさい。これ以上神の恵みを侮辱してはならない、主は涙をもって「あなたがたは、命を得るためにわたしのところにこようともしない」(ヨハネ 5:40) と言っておられる。今、イエスはあなたを招き、入ろうとあなたの心の戸をたたいておられる。あなたは主を招き入れるだろうか。(手紙 36, 1892 年) * 個人的な嘆願の書簡より

2月20日

わたしたちの助け主、聖霊

「すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。」(ローマ 8:14)

天使たちの奉仕を通して、聖霊は人間の心と精神に働いて、彼をキリストに引き寄せることができる。……しかし神の御霊は人間の自由に干渉しない。聖霊は人が神と協力できるために助け主として人間に与えられており、服従を強いるのではなく、魂を神に引き寄せるために与えられている。

キリストはすべての天の感化を分け与えようとしてされている。主は人に来るあらゆる誘惑と一人一人の伸びる素質を知っておられる。主はその人の能力を量られる。主は現在も将来も知っておられ、わたしたちの心に必要な務めをお置きになり、ありふれた世的なことに熱中して、永遠の事柄をないがしろにすることがないように勧めておられる。主は天の賜物を受けるすべての人にお与えになる恵みに満ちている。聖霊は、神がゆだねられた能力をキリストの奉仕にあらわせるようにして下さり、人間を天の型に従って形造ってくださる。(手紙 71, 1893 年)

聖霊は品性建設の働きにおいて、すなわち神の姿にかたどって品性を形成するときのわたしたちの能力である。わたしたちは自分で自分の経験を形成できるものだ考えるならば、大きな過ちを犯している。わたしたちは自分では誘惑に勝利することはできない。しかし、キリストを信じる純粋な信仰を持っている者は聖霊が働いてくださる。心に信仰を持っている魂は、主のための美しい宮に成長する。その人はキリストの恵みによって指導される。聖霊の教えに頼る時、その割合に比例して、人は成長する。(原稿 8, 1900 年)

聖霊の感化は、魂の中にあるキリストの命である。わたしたちは今日、キリストと会ったり、語ったりすることはできない。しかし主の聖霊はわたしたちが互いに近くにいるようにわたしたちの近くにおられる。聖霊はキリストを受け入れるすべての人の内で動き、またその人を通して働かれる。聖霊の内住を知っている者は、聖霊の実、すなわち愛、喜び、平和、忍耐、柔和、善意、信仰を表す。(原稿 41, 1896 年)

隠された宝

「天国は、畑に隠してある宝のようなものである。人がそれを見つけると隠しておき、喜びのあまり、行って持ち物をみな売りはらい、そしてその畑を買うのである。」
(マタイ 13:44)

神の国がなければ、わたしたちは迷い、……希望なく、この世界にいることになる。しかし、イエス・キリストを信じる信仰によって、救いがわたしたちに提供された。キリストは宝であり、世のガラクタが取り去られるならば、わたしたちは主の無限の価値を識別することができる。……

キリストの神性は、いわば隠された宝であった。主が地上におられたとき、しばしば神性は人性を通してひらめき出た。そして、主の真のご品性が現れた。天の神は、御子と一体であることを証明された。主のバプテスマのとき、天は開かれ、よく磨いた金のハトのような姿で神の栄光が救い主の上を舞い、天からの声は「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」(マタイ 3:17)と言われた。しかしキリストが来られたその民は、神の特別な民であると宣言していたが、イエス・キリストという人物の中にある天の宝を認めなかった。……

天の王は、人性という見かけのために識別されなかった。主は神から送られた天の教師であり、人間に与えられた輝かしい宝であった。主は人の子たちよりも美しかった。しかし、主の比類のない栄光は、貧困と苦しみという覆いの下に隠された。それで莫大な価値をもつ宝の価値は人類にとって認められなかった。

……

「言は肉体となり、わたしたちの内に宿った」(ヨハネ 1:14)。宝は、実際に人性という衣の下に隠されている。キリストは計り知れない富である。キリストを見出す者は、天を見出すのである。イエスを見上げ、信仰によってこのお方の比類のない魅力を感じる者は、永遠の宝を見出す。(ユース・インストラクター 1895 年 8 月 22 日)

キリストは、畑を買えるようになるまで、宝を隠している人をほめるために、このたとえを用いられているのではない。そうではなくてこのたとえを使われた主の目的は、霊的事柄の価値を、わたしたちの心に伝えるためである。世の宝を獲得するために、人は自分のすべてを犠牲にする。そうならば、わたしたちは価値のつけられない、天の宝のためにどれほどたくさん与えるべきであろうか。(同上 1895 年 9 月 5 日)

2月22日

あなたは志願したか

「わが子よ、あなたの心をわたしに与え、あなたの目をわたしの道に注げ。」(箴言 23:26)

青年たちよ、あなたにできる最もよいことは、自由の意志で断固として、主の軍隊に志願することである。あなたの意志を神のみ手にゆだねなさい。そうすればあなたは知恵においてまちがうことのない、そして、善において無限な方によって、あなたの意志と道が導かれる。あなた自身を神に与えずにおくことは、神から神ご自身のものを奪うことである。主はあなたを必要とし、あなたは主を必要としている。断固とし一步を避けたり神にあなた自身を完全にささげるという事柄を遅らせるのは安全なことではない。もしあなたが、まだあなた自身を神に与えていないならば、今それをするをお勧めする。あなたの名前を神が選ばれ、立てられた者として、天の記録に登録されるものとしなさい。……

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るためである」(ヨハネ 3:16)。……キリストというこの上もなく尊い賜物を通して、わたしたちのすべての祝福が来る。命、健康、友人、理性、幸福は、キリストの功績を通してわたしたちのものとなる。青年も年老いた人も、すべてはキリストのご生涯と死の徳、また神の所有権の知識を通して自分たちに来るものであることを知ることができる。……

わたしたちは残酷な君主の支配の下にあった時でさえ、暗黒の君がわたしたちの精神を治めていた時でさえ、主イエス・キリストはわたしたちのためにご自身の血を身代金として払われた。あなたは代価をもってキリストの尊い血で買い取られたのである。あなたは主の財産である。それだから自分の体をもって神の栄光をあらわしなさい。……

もしキリストから惜しみなく与えられた愛がなかったならば、わたしたちは今、希望のない絶望状態、霊的な真夜中に中にいることであろう。神がキリストを与えてくださったことを、日々神に感謝しなさい。あなたは神の賜物を受けようと思わないのだろうか。主の証人になろうと思わないのだろうか。時は短い。昼間が続いている間にあなたは働き、滅びることのない命を生き、キリストと共にあなたの生涯を神の中に隠することができる。そのとき、「わたしたちの命なるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう」(コロサイ 3:4)。(ユース・インストラクター 1894 年 4 月 26 日)

どんなに大きな愛を

「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。」(ヨハネ第一 3:1)

「しかし、彼を受け入れた者、……には、神の子となる力を与えたのである」(ヨハネ 1:12) ……「すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは『アバ、父よ』と呼ぶのである。御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない」(ローマ 8:14-18)。

ヨハネは罪深い人間に対する驚くべき神の愛を表現するのに適切な言葉を見つけることができずに、彼はすべての人に、神のひとり子という賜物の中にあらわされた神の愛を見よと呼びかけている。罪ある人類のために与えられた完全な犠牲を通してキリストを信じる者は……永遠の滅びから救われるのである。キリストは御父と一つであられた。しかし、アダムの違反によって、罪がわたしたちの世界に入ったとき、主は神と等しいお方として、すなわち人間の近づき得ない光の中に住んでおられ、栄光に満ちあふれておられるので、いかなる人間もみ顔を見て、なお生きることとはできないお方としての高みから、自発的に降りてこられた。そして神の不変の律法の要求に答えるために、侮辱と嘲り、また苦しみと痛み、そして死を甘んじて受けられた。主の死と義によって、違反者に逃れの道を作られたのである。これが、御父が主になすようにゆだねられた働きであり、主の功績にまったく頼って、キリストを受け入れる者は神の養子としての息子、娘すなわち神の相続人、イエス・キリストと共同の相続人にされるのである。……

だれも、……どんなに有能でも、博学でも、誉れを受けていても、キリストを受け入れることがへりくだりだと考えてはならない。すべての人は「どんなに大きな愛を父から賜ったことか」と驚きの叫びと畏敬と感謝をもって天を見上げるべきである。(ユース・インストラクター 1894 年 9 月 27 日)

2月24日

彼に似るものとなる

「愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。」(ヨハネ第一 3:2)

世の救い主であるイエスはご自分のすべての子供たちを、それぞれの名で知っておられる。そして、このことを信じる者は主の栄光の下に来るであろう。……イエスを見つめる者は主のみ姿に変えられ、主のご性質に同化し、イエスのみ顔に輝く神の栄光が主に従う者の生活に反映される。クリスチャンが栄光から栄光に変えられれば変えられるほど、……ますますキリストを見つめるようになり、ますます愛し、再び熱心に見つめ、ますます光と愛と栄光をキリストの中に見出し、彼の光はますます増大するであろう。……

霊的な目がイエスの栄光を見つめるのは信仰によってである。この栄光は、主が霊的真理の光を分け与えられるまで隠されている。なぜなら理性の目はそれを見ることができないからである。キリストの栄光と奥義は主がその意味を魂の前に輝き出されるまで、その極端な輝きのために雲に覆われ、理解できないままにしておかれるのである。……信仰によって、魂はイエスからの聖なる光をとらえる。わたしたちは主の純潔と謙遜、また自己否定と墮落した人間を救うための驚くべき犠牲に、比べるもののない美しさを見るのである。キリストを瞑想することは人間を正しい自己評価に導く。……人が愛し、あがめる方であるイエスのような者になるという可能性は、人の内に愛によって働き、心を清める信仰を起こさせる。……信仰の目によって主を見つめる魂にとっては、他のなにものにもまさって、イエスは尊い方であり、イエスにとって信じる魂は、オフルの純金にまさって尊いものなのである。キリストはご自身の手、すなわちそこにある十字架のしるしを見て、言われる、「わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ。あなたの石がきは常にわが前にある」(イザヤ 49:16)。クリスチャンは無限の神の豊かな、十分なみ約束で囲まれている。

主は力と栄光をもって来られる。キリストを自分の逃れ場所とする者はだれでも、主のみ姿を反映するであろう。彼らは主があらられるように主を見るので、主のようになるであろう。彼らは「しみも、しわも、そのたぐいのものが」一切なく主にささげられるべきである(エペソ 5:27)。(レビュー・アソド・ハルド 1890年10月7日)

偉大なる教師のもとに

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」(コリント第二 5:17)

真の改心が心に起こるとき、それは品性の改変のうちに現れる。なぜなら、改心した者はキリストのようになるからである。自尊心はもはや心の中に存在しない。罪を忌まわしいと思うようになる。改心した魂は自分の道徳的な感覚を低下させるようなことを嫌う。彼は命と栄光の主を十字架につけたものを嫌う。真に改心した者は主と救い主、イエス・キリストの知識に成長し、キリストの知識が増大する時、彼らはもっと明らかに、自分の弱さを知り、自分の性質の深い墮落に気づくのである。彼らは罪の力を理解し、自分たちの古い習慣の力を知る。……彼らは毎日イエス・キリストの助けなしには何事もまったくできないという実感を持つ。それゆえに彼らは「わたしは、わたしの助けなき魂をあなたにゆだねる。わたしの手には支払う代価もなく、ただあなたの十字架のみにすがりつく」と言う。

罪人が神の小羊を見つめるとき、彼はもっとはっきりと、世の罪を取り除くために、神がなさった準備を見る。彼はあらゆる戦いに恵みの御霊が十分に、そして必要を満たすだけに与えられていることを知る。罪を取り除くための神秘的な備えはイエス・キリストである。……「彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである」(ヨハネ第一 2:2) ……

真のクリスチャンは、キリストのために、自己否定を行うことを拒みはしない。神の子供である人々は熱心な働き人である。彼らは怠惰な僕ではない。神の家には怠け者はいない。信仰の家族の一人一人は自分に割り当てられた仕事を持っている。……もし、彼らがキリストの学校で学ぶ者であるなら、彼はあかしをする方法や祈る方法、また主人の証人としての生き方を学ぶ。……

真のクリスチャンは勤勉で、絶えず学ぶ者である。彼は自分の知恵や力、また経験の足りなさに気づき、自分の意志と、自分の関心をすべて偉大なる教師であられる方にお任せするのである。(手紙 12a 1893 年)

キリストの血で贖われたもの

「あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。」(ペテロ第一 1:18, 19)

「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい」(コリント第一 6:19, 20)。あなたは、神ご自身の血の代価で贖われたものを神にお返しするだろうか。自分の理性の力を神に捧げて、神の栄光のためにとっておくだろうか。これらは神のものである。神はそれらを、代価をもって買い取られた。あなたの良心が啓発され、よい良心となって、魂の最高の関心事を守る忠実な番兵となるために、あなたはキリストの学校に入りたいと思うだろうか。キリストは愛情を買い取られた。あなたはそれらをもて遊ぶのであろうか。悪用するのだろうか。それらを価値のないものとして、人間に愛情を集中し、創造主をあなたの神として礼拝する代わりに、被造物を神とするようなことをするのだろうか。あるいはあなたの愛情は清められ、高貴にされ、精錬されて、あなたの創造主と贖い主のまわりに巻き付くだろうか。……

神は二心の者の中には住まわれないし、二心の座を支配されることもない。愛情をとらえ、それらを愛の神からそらす心の中の敵対者は心の座から退位させなければならない。主はわたしたちの持っているすべてを求められる。何ものも取っておいてはならない。キリストはわたしたちを買い取られた。わたしたちは主の遺産である。そして、わたしたちは、イエス・キリストと共労者であることによって栄誉を得るのである。キリストと共にくびきを負い、日々神と共に歩みなさい。どのようにしてこれを行うことができるだろうか。神が提供された助けをしっかりと握っていることによってである。主は「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見出すであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう」(マタイ 7:7)と言われた。(原稿 60, 1894 年)

神はわたしたちを買われた。そして彼は一人一人の心にみ座をお求めになる。わたしたちの心とからだは神に従っていなければならない。そして、生来の習慣と食欲は、魂のより高い必要のために役立つものとならなければならない。しかし、わたしたちは、この働きをするにあたって自分自身に頼ることはできない。わたしたちが自分自身の導きに従うことは安全ではない。聖霊がわたしたちを新しくし、清めなければならない。神の奉仕においては中途半端な仕事というものはあってはならないのである。(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1088)

神の怒りの重さ

「われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。」(イザヤ 53:6)

ゲッセマネの園で、キリストは人の代わりに苦しめられた。そして神の御子の人としての性質は、有罪の恐ろしい恐怖の下に動揺し、主の青ざめた、ふるえるくちびるからは「わが父よ、もしできることでしたら、どうかこの杯をわたしから過ぎ去らせて下さい」(マタイ 26:39)と言われるのである。

人間の身代わりまた保証人であられるお方に報復的な正義を負わせた力は、罪の世に落ちかかるはずであった巨大な怒りの重さの下に苦しめられるお方を支え、励ました力であった。キリストは神の律法の違反者の上に下された死に苦しめられた。生ける神の御手に落ちることは、悔い改めない罪人にとって恐ろしいことである。これは、洪水による古い世界の滅亡という歴史によって、また火が天から降って、ソドムの住民を滅ぼした記録によって証明されている。しかし、主が罪の世に対する神の怒りを負われた時……キリストのその悩みは非常に大きかったので表すことができなかった。……

人間は罪の身代わりにはなれなかった。そして人は救い主が負われた罪の呪いの恐ろしさを決して分らない。いかなる悲しみも圧倒的な力で落ちてくる神の怒りを負われた主の悲しみに比べることのできるものはないのである。人間の性質は限られた試みと試練の量においてのみ耐えることができる。有限のものは有限の程度においてしか耐えることができない。人間の性質は圧倒される。しかし、キリストのご性質は苦しみに対し、もっと大きい能力を持っておられた。なぜなら、神の性質のうちに人間が存在したからである。そして、失われた世界の罪から生じたものに耐えるために、苦しみに対する能力を創造されている。キリストが耐えられた苦悩は、罪の性格について、また罪を犯し続ける者に神がもたらされる報復の性格について概念を広くし、深め、さらに拡張する。罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物はイエス・キリストによる永遠の命である。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1102, 1103)

2月28日

カルバリーの十字架

「されこうべと呼ばれている所に着くと、人々はそこでイエスを十字架につけ、犯罪人たちも、ひとりは右に、ひとりは左に、十字架につけた。」(ルカ 23:33)

カルバリーの十字架は力強く、なぜわたしたちが現在キリストを愛すべきかという理由、またあらゆることにおいて、主を第一に、そして最善として、そして究極として考えるかという理由を提供する。わたしたちは十字架の足元にくずおれたざんげのためにふさわしい場所を占めるべきである。わたしたちはカルバリーの山に登り、十字架を見上げ、苦悩のうちにあるわたしたちの救い主を見、瀕死の神の御子、不義の者のための義なる方を見る時、心の柔和と謙遜の教訓を学ぶことができるのである。一言でご自分を助ける天の軍団を招集することもできたお方、からかいや騒ぎの対象となり、ののしりと憎しみの的になられたお方を見つめなさい。主はご自身を罪のための犠牲としてお与えになった。非難されても、主はひるまなかった。偽りの告発がなされても、主は口を開かれなかった。主はご自分の殺害者のために十字架の上で祈られる。主は彼らのために死のうとしておられる。主は彼ら一人一人のために無限の代価を払おうとされている。主はご自分が偉大な代価で買われた人を失いたくないと思っておられる。主はつぶやくこともなく、打たれ、さげすまれるままにされた。そしてこの無言の犠牲は神の子なのである。主のみ座は永遠からであり、主のみ国には終わりが無い。……見よ、カルバリーの十字架を見上げよ。あなたのために苦しめる王の犠牲をながめよ。……

神の御子はわたしたちのために拒まれ、さげすまれた。あなたは十字架が全部見えるところで、信仰の目でキリストの苦しみを見つめながらあなたの試練、あなたの敵の話を語ることができるだろうか。キリストの青ざめた、わななかれるくちびるから、ご自分をののしる者、殺害者のために「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」(ルカ 23:34) と、主が祈られているその時に、あなたはあなたの敵への復讐を心の中にいだいていることができるだろうか。……

わたしたちを罪の墮落と奴隷の立場から、主の右の手にあるみ座に、引き上げてくださるために神の御子が甘んじて下さった謙遜の深さをわたしたちは避けてはならない。今こそわたしたちは品性の衣を洗って、小羊の血で白くするために、わたしたちの恵みの残り少ない貴重な時間をわたしたちがささげる崇高な時である。そうすれば、わたしたちはまもなく偉大な白いみ座のまわりに立っている白い衣を着た者となるであろう。(ビュー・アッド・ヘアッド 1881 年 8 月 2 日)

研究 10

神の憐れみの最後の招き



「アガペー戒めの目標」

前は、第三天使の大なる叫びは、「永遠の福音」の一部であることを見ました。すなわち、それは福音であり、その中に掲示されているキリストの義を見せて、つかむようにと招いているのです。

今回は、その第三天使の大なる叫びの内容を見ていきます。この永遠の福音は、キリストの義、すなわち戒めによって証されている完全な義を提示しています。

アガペー戒めの目標

「命令（戒め）は、清い心と正しい良心と偽りのない信仰とから出てくる愛を目標としている」（テモテ第一 1:5）

「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである」（ヨハネ第一 5:3）。

「愛は律法を完成するものである」（ローマ 13:10）。

「キリスト、しかも十字架につけられたキリスト…神聖な愛の啓示が、世に対して光を担うものとなるべき自分たちの義務をなおざりにしてきたという自覚を彼らのうちに芽生えさせ、彼らに伝道の精神を吹き込んだ。この真理は思いを啓発し、魂を聖化する。それは不信を払いのけ、信仰を鼓舞する。それは人の思いの前にたえずおかれているべき一つの偉大な真理である。それでありながら、神の愛がどれほどぼんやりとしか理解されていないことであろう。またみ言葉の教えの中で、なんとおぼろげな印象しか与えていないことであろう」（エル・G・ホト 1888 年原稿 806）

十字架につけられたキリスト、この神の愛の啓示こそ、神の戒めに表された神の愛です。その十字架につけられたキリストを信じると言いながら、それによって神の戒めを軽視するとは、「どれほどぼんやりとしか理解されていない」こと

でしょう。しかし、それは現代の真理、つまり現在のキリストを知らない人々だけでしょうか。

「第三天使のメッセージを理解している人は、それを信じていると主張している人々の中にさえ、わずかしかない。しかし、これはこの時代のためのメッセージなのである。それは現代の真理である。しかし、このメッセージを真の意味のうちに取り上げ、その力のうちに人々に提示する人は、なんと少ないことであろう！多くの人にとってそれはほとんど力がない。

わたしを案内する者が言った、「まだ神の律法と義の福音から輝き出なければならぬ光が多くある。このメッセージが、その真の性質のうちに理解され、御霊のうちに宣布されるならば、地をその栄光で明るくするのである。大いなる決定的な問題が、あらゆる国民、国語、民族の前に持ち出されなければならない。第三天使の終結の働きには、義の太陽の光線を人生のあらゆる大路や垣根に送る力が伴い、最高の統治者としての神のために、決心がなされる。このお方の律法がこのお方の統治の規則だと認められる。

真理を信じると主張する多くの者が、危機の時に自分の意見を変える。そして迫害を逃れるために神の律法の違反者の側の立場を取るのである」(エリ・G・オット 1888 年原稿 165, 166)

「まだ神の律法と義の福音から輝きでなければならない光が多くある」。

神の律法と義の福音は、キリスト、しかも十字架につけられたキリストを指し示します。さらにその福音の一部である第三天使のメッセージは、「この時代のためのメッセージなのである」、すなわち至聖所に輝く十字架の光のうちにキリストを指し示します。もし、「このメッセージがその真の性質のうちに理解され、御霊のうちに宣布されるならば、地をその栄光で明るくするのである」。このメッセージの結論は、最高の統治者としての神のために決心すること、そして、このお方の律法がこのお方の統治の規則だと認めること、すなわち、「神の戒めを守り、イエスの信仰を持ち続ける聖徒の忍耐」です。

今、この第三天使のメッセージを真の性質のうちに理解していない人々、すなわち、至聖所のイエス・キリスト以外に気を取られている人々には錨がなく、嵐が来た時に耐える聖徒の忍耐がありません。

しかし、この福音は全世界のためです。

全世界の罪のために

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ 3:16)。

「イエス……を見る。それは、彼が神の恵みによって、すべての人のために死を味わわれるためであった」(ヘブル 2:9)。

「彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである」(ヨハネ第一 2:2)。

「わたしたちは、……すべての人の救主、特に信じる者たちの救主なる生ける神に、望みを置いてきた」(テモテ第一 4:10)。

「なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。……ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである。そして、彼がすべての人のために死んだ……」

「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである」(ローマ 3:23, 24)。

「神は、み子という比類なき賜物を与えて、ちょうど空気が地球の回りを取りまいているように、恵みの雰囲気で全世界をつつまれた」(キリストへの道 90)。

「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか」(ローマ 8:32)。

「イエスは『わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう』と言われた(ヨハネ 12:32)。……罪人はこの愛を拒み、キリストに引かれることを拒むこともできますが、逆らいさえしなければ自然にイエスに引きよせられるのである」(キリストへの道 29)。

「悪人の運命は、彼ら自身の選択によってきまるのである。彼らが天から除外されるのは、彼らが自ら進んでそうするのであり、神の正義とあわれみによるのである」(各時代の斗争闘下巻 293)。

「この世の生命さえキリストの死のおかげである。われわれの食べるパンは、キリストの裂かれたからだをもって買われたものである。われわれの飲む水は、キリストの流された血によって買われたのである。聖徒であろうと罪人であろうと、日ごとの食物を食べる者はだれでも、キリストのからだと血によって養われているのである。どのパンにもカルバリー十字架の印がおされている」(各時代の希望下巻 141)。

「このお方はサタンが合法的な領地として支配していると主張する世界を、ご自分のみ手のうちにつかんで下さった。そしてご自分の命を与えてなされたそのすばらしいみわざによって、このお方は全人類を神の恩寵へと回復して下さった。……」(セクレット・メッセージ 1巻 343)。

「このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである」

(ローマ 5:18)。

キリストは、世の初めから「世を照らす光」です。これは終わりの時代に至るまで、変わることはありません。第三天使の大いなる叫びも同様です。

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた」(黙示録 18:1)。

「わたしはまた、もうひとつの声が天から出るのを聞いた、『わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ』」(黙示録 18:4)。

「この天使一天から下って来、栄光をもって地を照らし、力強い声でバビロンの罪を知らせる天使一によって象徴されているところの運動が起こる。この天使のメッセージと関連して、『わたしの民よ。彼女から離れ去れ』という呼びかけが聞かれる。これらの布告は、第三天使のメッセージとともに、地上の住民に与えられる最後の警告なのである』」(各時代の斗争闘下巻 372)。

全地に伝えられるこの福音の光が、なぜ警告なのでしょう。か。「あなたがたは、語っておられるかたを拒むことがないように、注意しなさい。もし地上で御旨を告げた者を拒んだ人々が、罰をのがれることができなかったなら、天から告げ示すかたを退けるわたしたちは、なおさらそうなるのではないか」(ヘブル 12:5)。

「黙示録 14 章の第二天使のメッセージは、最初、1844 年の夏、宣べ伝えられた。そして、それは当時の米国の諸教会に直接当てはまるものであった。米国においては、審判の警告が最も広く宣言されたにもかかわらず、大部分の教会はそれを拒否して、急速に墮落してしまった。しかし、第二天使のメッセージは、1844 年に完全な成就を見たのではなかった。その時、教会は、再臨のメッセージの光を拒否したために、道徳的墮落を経験したのであったが、しかしその墮落は、全面的なものではなかった。諸教会は現代に対する特別な真理を拒否しつつづけてきたために、ますますひどく墮落してしまった。しかし、『バビロンは倒れた。……その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者』と言うまでには、まだなっていない。彼女はまだあらゆる国民に飲ませてはいない。世俗と妥協する精神と、われわれの運命を決定する現代の真理に対する無関心とが、すべてのキリスト教国のプロテスタント諸教会内で力を得ている。こうした教会も、第二天使の厳粛で恐るべき告発のなかに含まれる」(各時代の斗争闘下巻 91, 92)。

「黙示録 18 章は、教会が、黙示録 14:6-12 の三重のメッセージを拒否した

結果、第二天使のメッセージが預言した状態に完全に陥り、そして、まだバビロンにいる神の民が、その中から出るようにと求められる時を示している。これは、世界に発せられる最後の器である。そしてそれは、その働きを成し遂げる。『真理を信じないで不義を喜んでいた』人々は、偽りを信じ、迷わす力に陥るままにされる(テサロニケ第二 2:12)。そのとき真理の光は、それを受けようと心を開くすべての人の上に輝き、バビロンに残っている主の子供たちはみな、『わたしの民よ。彼女から離れ去』れという招きの声に耳を傾けるのである(黙示録 18:4)」(各時代の大争闘下巻 93)。

「諸教会が、第一天使のメッセージを受けることを拒んだときに、彼らは、天からの光を拒否し、神の恵みを失った。彼らは、自分たち自身の力に頼った。そして、彼らは、第一天使のメッセージに反対することによって、第二天使のメッセージの光を見ることができない状態に陥ってしまった。しかし、神に愛された者たちは、圧迫に会い、『バビロンは倒れた』というメッセージを受け入れて、諸教会を去った。

第二天使のメッセージの終わり近くに、天からの大きな光が、神の民を照らすのをわたしは見た。この光は、太陽よりも明るく見えた。そして、わたしは、天使が『さあ花婿だ、迎えに出なさい』と叫ぶ声を聞いた。

これは、第二天使のメッセージに力を与えるべき夜中の叫びであった。」(初代文集 390, 391)。

ここにありますように、三重のメッセージの開始と終結において、メッセージに力を添える大いなる叫びと光があることが預言されています。ここでそれを比較してみましょう。

夜中の叫び

↓

「迎えに出なさい」

第三天使の大いなる叫び

↓

「彼女から離れされ」

大いなる叫びを聞き、これを受け入れ、参加することを望む者は、どこに身を置いているべきでしょうか。

われますように。」

救い主は今にも死んでしまわれるかのように地面に倒れてしまわれました。自分の主の頭を優しく手でささえ、人の子と異なって見えるほど損なわれた額をふいてさしあげるはずの弟子はそこにいませんでした。キリストはお一人でした。そして民の中にこのお方と事を共にする者はいませんでした。

しかし神さまは御子と共に苦しみました。天使たちは救い主の痛みを見ました。天には沈黙がありました。立琴は音をたてませんでした。御父が愛する御子からご自分の光と愛の栄光の輝きを取り去られるのを、天使たちが無言の悲しみのうちに驚いて見守っているありさまを、もし人が見ることができたら、彼らは罪が神の御目にどんなにおそるべきものであるかをもっとよくさるとでしょう。

いま力強い天使がキリストのかたわらにきました。彼は自分の胸の上に聖なる受難者（じゅなんしゃ）の頭を持ち上げ、そして天の方を指しました。彼はこのお方に、サタンに対して勝利なさることを告げました。その結果として、無数の人がこのお方の栄光の王国で勝利者となるのです。

救い主の血のついたお顔に天来の平安が宿りました。このお方はどんな人も決して耐えることのできないことに耐えられたのでした。なぜなら、このお方はすべての人のために死の苦しみを味わわれたからです。

このお方は再びご自分の弟子たちを探し、そしてまた彼らが眠っているのをごらんになりました。彼らが目を覚ましていて、自分たちの救い主を見守り、祈っていれば、彼らは自分たちの前にある試練のために助けを受けたことでしょう。これを逃したために、彼らは必要な時に力がありませんでした。

彼らを悲しそうにご覧になって、キリストは言われました。「まだ眠っているのか、休んでいるのか。見よ、時が迫った。人の子は罪人らの手に渡されるのだ。」

これらの言葉を語っておられる時にも、このお方はご自分を探し求めている暴徒たちの足音を聞いて、言われました。「立て、さあ行こう。見よ、わたしを裏切る者が近づいてきた」（マタイ 26:45, 46）。

白玉粉チーズ

■材料

白玉粉	大さじ 3
無調整豆乳	250cc
味噌	小さじ 2
塩	小さじ 1
オリーブオイル	小さじ 2 分の 1
油	小さじ 1
レモン汁	小さじ 3 分の 2
野菜コンソメ	(好みで)

■作り方

1. 白玉粉をフードプロセッサーまたはミキサーで粉状になるまでまわす。
(＊結構重要)
2. 粉状になったら他の材料とともに小鍋に移して中火にかけ、ヘラでかき混ぜながら、全体がクリーム状にかわるまで 2 ～ 3 分ほど加熱する。
粉っぽさがなくなってクリーミーな触感になったら完成。

※フードプロセッサーで粒が残るとそのままダマになりますので、よく混ぜてください。

固さは豆乳で調整してください。

ピザやサラダのドレッシングなどに。おすすめの活用法はグラタンです。
とても良い食感に出来上がります。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第35話

ゲッセマネにて(Ⅲ)

この祈りの苦しみにより、このお方の毛穴からは血のしたたりがにじみ出ました。再びこのお方は弟子たちの同情をお求めになりました。そして、また彼らが眠っているのを見つけれられたのでした。このお方がそばに来られたので彼らは目を覚ましました。彼らはこのお方のみ顔を見て恐れしました。なぜなら、血で汚れていたからです。彼らはこのお方のみ顔に表れている心の苦しみを理解することができませんでした。

三度、このお方は祈りの場所へ行かれました。大いなる闇(やみ)の恐怖がこのお方を圧倒しました。このお方から御父のご臨在が取り去られていました。御父のご臨在がなければ、ご自分の人性はこのテストに耐えられないのではないかと恐れしました。

三度、このお方は前と同じように祈られました。天使たちは苦しみを取りのぞいてさしあげたいと望みましたが、そうするわけにはいきません。神の御子はこの杯を飲まなければなりません。さもなければ世は永遠に失われてしまうのです。このお方は人類の無力さをさとられます。このお方は罪の力をごらんになります。滅びる運命にある世の苦悩が、このお方

のみ前を通り過ぎていきました。

このお方は最終的に決心されました。ご自分がどんな犠牲を払ってでも人類を救おうとなさいます。このお方が純潔と幸福と栄光に満ちた天の宮廷を去られたのは、失われた一匹の羊、罪によって墮落した一つの世界を救うためでした。だから、このお方はご自分の目的から離れようとなさいません。今このお方の祈りには服従することだけが表明されるのでした。

「わが父よ、この杯を飲むほかに道がないのであれば、どうか、みこころが行



(43 ページに続く)